

道徳の時間 学習指導案

江田島市立能美中学校 安達 理恵

1 日 時 平成22年 2月19日 (金)

2 学 年 第2学年

3 主題名 家族への愛 [内容項目 4－(6) 家族愛]
(関連項目 2－(2) 思いやり 3－(1) 生命尊重)

4 ねらい 日々老いゆく祖母の言動に、心配をしながらもいらいだちを感じていた主人公が、一冊のノートから自分に対する祖母の深い愛情に気付く姿を通して、家族は深い愛情で結ばれていることに気付き、家族への敬愛を深め、家族の一員として互いに支え合っていこうとする心情を育てる。

5 資料名 「一冊のノート」(出典 廣濟堂あかつき株式会社「自分を考える2年」より)

6 主題設定の理由

○主題観

本時の主題は、「父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。」の内容項目に当たる。

人は、過去から受け継がれた生命の流れの中で生きている。今の自分があるのは、父母や祖父母があるからである。そして、父母や祖父母にかけがえのない子どもとして無私の愛情をもって育てられたからである。子どもたちの家庭を取り巻く状況は様々であるが、家族の成員相互が深い愛情や温かい信頼関係によって結ばれていることが大切であるという自覚をもつことが必要である。その自覚をもつことが、より充実した家庭生活を築くことにもつながる。

中学生の時期は、自我意識が強くなり、自分の判断や意志で行動しようとする自律への意欲が高まってくる。そのため、家族の自分への愛を押し付けと受け止め、うっとうしく感じることも多くなる。さらに、家族からのちょっとした忠告や叱責が、あたかも自分の存在を否定されたように思えて、反抗したくなる時期でもある。また、少子化や核家族化などが進んだことにより、様々な人間関係の中の多くの体験によって、人との関わり方や交わり方を学ぶ機会が減っている。そして、家族の形態も多様になってきており、家族とは何かが分かりにくい現状でもある。

だからこそ、この時期の生徒に、自分は父母や祖父母の深い愛情を受けて育てられたことに気付き、家族への敬愛を深め、家族の一員として互いに支え合っていくことが充実した家庭生活につながっていくことに気付かせるということは大切なことである。

○生徒観

本学年の生徒は、日々の生活の中で自分は家族に愛情をもって育てられてきたと感じている生徒が多い。また、祖父母と同居していたり近くに住んでいたりして、日頃から祖父母とかかわりをもっている生徒も多い。そのためか、多くの生徒が父母だけでなく祖父母も、自分の成長にとって欠かせない大事な家族であると感じている。

その反面、身近な存在である祖父母に対して、幼少期と同じように世話を焼かれることにいらだちを感じて反抗的な言動をとる生徒もいる。また、中には「忘れ物をしても、すぐ持ってきてくれるから大丈夫。」や、「電話したのにすぐに迎えに来てくれない。」と言った言動も見られ、家族が自分のためにしてくれる様々なことを当然のことと受け止めたり、時には家族への甘えから横柄な態度をとったりすることもある。

そのような生徒に、自分は家族の深い愛情を受けて育ってきたことを改めて感じ取らせるとともに、家族はかけがえのない存在であることに気付き、互いに支え合って生活していこうとする心情を育てることは、必要なことである。

○資料観

本資料は、祖母と同居する中学生の「ぼく」が主人公の話である。「ぼく」は、老いが進む祖母を心配しつつも、その言動にいら立ちを感じたり、どうにもならないもどかしさを感じたりし、祖母への接し方について思い悩む。そんな中、「ぼく」は祖母の書いた一冊のノートを見つけたことをきっかけに、祖母の苦しみや自分が受けてきた深い愛情に気付く。

「ぼく」が、祖母とのかかわりに思い悩みながらも、祖母への理解を深めていった姿を通じて、

家族は深い愛情によって結ばれていることに気付き、互いに支え合って生活していこうとすることの大切さを考えることができる資料である。

○指導観

指導に当たっては、まず、「ぼく」の家族が、老いが進む祖母に様々な支障が出始めたことに気付いていることを押さえておく。そして、「ぼく」が学校帰りに薬局の前で、奇妙な格好をした祖母に出会ったときの気持ちを問うことで、祖母の行動に困惑し、腹立ちさえ感じている「ぼく」の気持ちに共感させる。

次に、父が祖母の病状を伝えたときの、「だけど……。」と答えた「ぼく」の気持ちを問う。そのことで、祖母を理解していかなければという思いと、これまで頼りにしてきた祖母が変わっていくことを受け入れられない思いとの間で苦しむ「ぼく」の気持ちに気付かせる。

そして、祖母のノートを読んだときの「ぼく」の気持ちに共感させながら、最後に、中心場面として『ぼく』は、だまって草を取りながら、心の中でどんなことをおばちゃんに語りかけていただろう。」と問う。また、補助発問として、「なぜ、『ぼく』の祖母への思いが（このように）変わったのだろうか。」を用意しておき、これまでの祖母への思いと比べて考えさせていく。そうすることで、祖母への謝罪や感謝の気持ちだけではなく、これからは祖母の支えになっていこうという「ぼく」の気持ちにも気付かせていきたい。その際、ワークシートに自分の思いを書き、ペアトークで互いの考えを交流させていく。そして、交流する中で、新たな気付きなどがあった場合には自由に書き加えるようにしていくことで考えを深めさせていく。

展開後段では、学習を振り返って「家族」と聞いてイメージする言葉を考えさせる。また、なぜその言葉をイメージしたのかを問うことにより、イメージだけでなく家族に対する思いについても考えさせていく。そうした中から自分も家族のために役立っていきたいという思いへつなげていきたい。そして、自分への家族の愛情を改めて感じるだけでなく、自分も家族の一員として支え合っていきたいという心情を育てたい。

7 準備物 掲示物（ 場面絵 登場人物の絵 ） ワークシート

8 指導過程

段階	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点 (○) 補助発問 (補) 評価 (☆)
導入	1 これまでの自分の体験を出し合う。	○最近、家族にしてもらったことで嬉しかったことはどんなことか。 ・誕生日にプレゼントをもらったこと。 ・雨の日に車で迎えにきてくれたこと。 ・買い物に連れていってくれて、好きなものを買わせてくれたこと。	○家族とのかかわりで、嬉しかった体験を出し合うことで、ねらいとする道徳的価値について意識付けを図る。 ○家族形態が多様化していることに配慮する。
展開前段	2 資料「一冊のノート」を読んで話し合う。 ① 心に残った部分について話し合い、課題意識をもつ。 ② 学校帰りに祖母を見たときの「ぼく」の気持ちについて考える。 ③ 父から祖母の病状を聞いたときの「ぼく」の気持ちを考える。 ④ 祖母と並んで黙って草取りをしているときの「ぼく」の気持ちについて考える。	○この話で、心に残ったところはどこだろう。 ・「ぼく」がおばあちゃんのノートを読んだところ。 ・「ぼく」がおばあちゃんの隣で草抜きをしているところ。 ○学校帰り、薬局の前で奇妙な格好をした祖母を見たとき、「ぼく」はどう思っただろう。 ・なんでそんな変な格好しているんだ。恥ずかしい。 ・友達と一緒にのときに会うなんて。 ・どうしたらいいんだろう。 ・ぼくのおばあちゃんだとわかったら、ぼくがからかわれる。いやだ。 ・関係ないふりをしよう。 ・昔はこんなおばあちゃんじゃなかったのに。 ○「だけど」の後の「……。」を言葉にすると、どう言いたかったのだろう。 ・おばあちゃんが笑われるのを見たくない。 ・困っているのは、おばあちゃんじゃなくてぼくたちだ。 ・やっぱり自分が困ったり迷惑をかけられたりするの嫌だ。 ・おばあちゃんのこと、自分も笑われるかもしれない。 ・これまでは、いろいろおばあちゃんがやってくれていたのに。急に自分でするのは無理だ。 ・しっかり者のおばあちゃんだったのに。変わっていくなんて信じられない。 ・どうにかしたいけど、どうしていいかわからない。 ○「ぼく」は、だまって草を取りながら、心の中でおばあちゃんにどんなことを語りかけていただろう。 ・これまでつらく当たって悪かった。 ・ひどいことをたくさん言ってごめんね。 ・おばあちゃんの思いに気付かず、本当にごめんなさい。 ・ぼくたちは、おばあちゃんの気持ちも知ら	○生徒が挙げた場面について考えていくことを知らせる。 ○祖母の異変に気付き心配をしつつも、困惑している「ぼく」と弟の状況を押さえておく。 ○祖母の格好に違和感を感じただけでなく、さらに友達が祖母を見て非難したことで恥ずかしい気持ちになった「ぼく」の気持ちに共感させる。 ○祖母の状況を理解していても、これまで頼りにしてきた祖母が変わっていくことを受け入れられない「ぼく」の気持ちに気付かせる。 ○祖母のノートを再読し、祖母の思いを知ったときの「ぼく」の気持ちを感じ取らせてから、発問する。 ○祖母の愛情を感じた「ぼく」が、家族の中で互い

展開前段		<p>ずに、自分勝手だった。後悔している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おばあちゃんも、一生懸命だったんだね。 ・おばあちゃん、これまでありがとう。 ・これからはもっとおばあちゃんを大事にするからね。 ・ぼくにできることを何かちょっとずつでもやっていくよ。 ・これからはぼくも、おばあちゃんを支えていくからね。 ・次はぼくの番だからね。 	<p>に支え合うことの大切さに気付いた姿に共感させる。</p> <p>〔補〕「なぜ、『ぼく』の祖母への思いが（このように）変わったのだろうか。」と問うことで、祖母のノートをきっかけに変化した「ぼく」の心の動きを考えさせる。</p> <p>○ペアトークを行い、多様な考えに触れる中で、自分の考えを深めさせる。</p>
展開後段	3 これまでの学習を振り返り、家族について考える。	<p>○今日の学習を振り返って、「家族」と聞いてイメージすることを、キーワードにしてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切な存在。 ・信頼し合える人。 ・理解しあえる人。 ・支え、支えられる関係。 	<p>○言葉をイメージした理由を問うことにより、家族に対する思いについても考えさせていく。また、自分の体験から発言できる生徒があれば、発言を促す。</p> <p>☆家族が支えられ、支えていく存在であるということに気付くことができたか。</p>
終末	4 教師の説話を聞く。	○みなさんと同じ中学生が書いた詩があるので、紹介します。	

9 板書計画

